

くりもとようこ音の個展X

弦・絃祭り

2025年10月30日(木)

19:00開演(18:30開場)

ザコンサートホール

名古屋・伏見・電気文化会館

入場無料(要整理券)

※未就学児入場不可

くりもとようこ 作曲

月・ヴァイオリンのための (1999) ヴァイオリン: 古井麻美子
紫の (2015) ヴイオラ: 江頭摩耶

再生 - 弦楽四重奏のための (1998) ヴァイオリン: 古井麻美子 鳥居愛子
Imitation 模倣 (1992) 十七絃: 大久保智子 ヴイオラ: 江頭摩耶
(ローデン千恵氏 委嘱作品)

八事のホケトウス (2023) フルート: 寛孝也 ピアノ: 小山奏司

臆病な自尊心と尊大な羞恥心 (2025)【初演】 ヴァイオリン: 江頭摩耶
チェロ: 野村友紀 堀田祐司



後援: 特定非営利活動法人日本現代音楽協会
一般社団法人日本作曲家協議会

お申込み・お問い合わせ: クラシック名古屋 052-678-5310

くりもとようこ音の個展X

弦・絃祭り

特定の楽器の作品を集めたコンサート「〇〇祭り」の第4弾。

前半は、マックス・エルンストの絵画に触発されて書いたヴァイオリン・ソロの「月」、ヴィオラの特殊奏法を駆使した「紫の」、そして、2000年「アジア音楽祭in横浜」でも演奏された弦楽四重奏のための「再生」。これは、天野潤氏のインスタレーションに触発されて書いた曲。

後半は、二重奏曲を3曲。どちらかが片方の伴奏をする様な主従関係を持たせるのではなく、2つの楽器の間にどういう関係を作るかを考えた作品。

アメリカで活躍するピアニスト、ローデン千恵氏の委嘱で作曲し、ニューヨーク、カーネギーリサイタルホールで初演された十七絃とピアノのための「Imitation 模倣」は、敢えて音色・音型を模倣することを考えた。

「八事のホケトッス」は、フルートとヴァイオリンという音域は似ているが発音体としては異なる2つの楽器で1本の線を書こうとした。

今回の新作である「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」は、作曲のきっかけとなった中島敦の小説「山月記」の中の有名な言葉の様に、1本の線に内在する2本のチェロ、というものを考えた。

1992年から最新作までの弦(絃)楽器による私なりの試みをお聴き下さい。

くりもとようこ(作曲)

愛知県立芸術大学、及び大学院修了。作曲を石井敏氏に、ピアノを藤井博子氏、山崎孝氏に師事。これまでに作曲の個展を9回、ピアノリサイタルを6回開く。作曲・演奏活動の他にパフォーマンスもする。

1983年、東京の合唱団「わだち」の伴奏者としてチェコスロヴァキアに演奏旅行。又、名古屋にて、現代音楽の演奏家グループEnsemble Todayを組織し、1990年より、くりもとようこプロデュースシリーズを開始し4年間で11公演行う。1991年には、台湾で開かれたアジア女性作曲家フォーラムに参加。1993年春には、アメリカ政府より1ヶ月文化交流に招待される。ACLアジア音楽祭では1994年(台北)、1999年(インドネシア)、2000年(横浜)で作品が演奏されている。他に、NHKテレビ「中学生日記」、NHKラジオ「お話でてこい」、人形劇、演劇、ダンスの音楽を担当。1992年度名古屋市芸術奨励賞受賞。2009年度名古屋音楽ペンクラブ賞受賞。

現在、日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、CBCクラブ各会員。フォンテックよりCD「くりもとようこ自作自演集」をリリース。

古井麻美子(ヴァイオリン)

名古屋市立菊里高等学校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。チェコ国立ブラハ芸術アカデミー研究科修了。第46回全日本学生音楽コンクール名古屋大会高校の部第1位。豊田文化奨励賞、名古屋市民芸術祭特別賞、名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞。これまで大阪シンフォニカー交響楽団(現 大阪交響楽団)、中部フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターを務め、現在は中部フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者、名古屋音楽大学及び同朋高等学校音楽科非常勤講師。

鳥居愛子(ヴァイオリン)

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。在学中、第一回全日本演奏家協会新人演奏会に出演。第5回日本クラシック音楽コンクール一般の部 全国大会入選。シューベルト生誕200年記念コンサートにソリストとして出演。スロヴァキア・フィルハーモニック・ソリスト(指揮 武藤英明)とシューベルトの小協奏曲を共演。これまで、故)大沢美木、村治泉、故)阿部靖、瀬戸瑠子の各氏に師事。現在、フリー奏者としてオーケストラ、室内楽を中心に活動。名古屋二期会オペラ管弦楽団団員。

江頭摩耶(ヴァイオリン・ヴィオラ)

名古屋市立菊里高等学校音楽科、愛知県立芸術大学音楽学部卒業。桑原賞、中村桃子賞受賞。フィンランド国立シベリウスアカデミーを最優秀の成績で修了。欧州や南アフリカのオーケストラにゲストコンサートマスターとして出演のほか、モザンビークでは2015年から毎年音楽祭に招聘され、現地での指導も継続している。2024年には南ア・ステレンボッシュ音楽祭にヴィオラ奏者として出演した。ヴァイオリン・ヴィオラ奏者として幅広く活躍中。

野村友紀(チェロ)

京都市立芸術大学卒業後渡独、カールスルーエ音楽大学に入学。ディプロム取得後、室内楽コースにて最高点で国家演奏家資格を取得。在独中はカールスルーエ、マンハイム両国立歌劇場に在籍。これまでに、吉田順、河野文昭、上村昇、M.オスタータークの各氏に、室内楽をW、ヤーン、フォーレカルテットに師事。室内楽に力を入れており、3組の弦楽カルテットに所属、公演を積極的に行う。現在、愛知県立芸術大学及び名古屋市立菊里高等学校、椋山女学園大学非常勤講師。

大久保智子(十七絃)

東京芸術大学音楽学部邦楽科卒。同大学院修士課程修了。同非常勤講師(助手)、名古屋芸術大学音楽学部非常勤講師を経て、現在、名古屋音楽大学客員教授、愛知県立明和高等学校音楽科非常勤講師、清須市立西枇杷島中学校邦楽部講師、名古屋アートピアアドバイザー、箏曲宮城会理事、同東海支部支部長をつとめる。名古屋市民芸術祭賞、同審査員特別賞など受賞。箏曲宮城社大師範。鮎智の会主催。

小山奏司(ピアノ)

愛知県岡崎市出身。幼少期をアメリカで過ごし、インディアナ州立大学の先生に師事する。愛知県立明和高等学校音楽科、東京藝術大学卒業。同大学院修士課程、ロストック音楽演劇大学修士課程修了。J.S.バッハ「平均律クラヴィーア曲集」第1巻、F.メンデルスゾーン「無言歌集」によるリサイタル等を開催。桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」、愛知県立明和高等学校音楽科、金城学院大学非常勤講師。

箕孝也(フルート)

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。同大学院修了。リサイタルなどのソロ活動の他、室内楽、オーケストラでも数多くのコンサートに出演している。愛知ロシア音楽研究会、名古屋フランス音楽研究会会員。名古屋二期会オペラ管弦楽団、アンサンブル・ノビレ団員。ムラマツフルートレッスンセンター、睦美音楽センター講師。椋山女学園大学、中部大学非常勤講師、日本フルート協会理事、名古屋笛の会副会長。

堀田祐司(チェロ)

愛知県出身。名古屋市立菊里高等学校音楽科、東京芸術大学音楽学部を卒業。兵庫芸術文化センター管弦楽団に入団、フォアシュペラーを務める。Cello Akademie Ruteheimにてウェン＝シン・ヤンのマスタークラスを受講。ドレスデン音楽大学大学院を卒業。アフィニス夏の音楽祭がわ2024に参加。名古屋を中心に活動。セントラル愛知交響楽団チェロ奏者。名古屋弦楽四重奏団メンバー。